

28歳のロッシェニの肖像(1)——C.マイアーの油彩に基づくリトグラフ

(水谷彰良コレクションより)

最も有名な油彩の肖像画に基づくリトグラフ

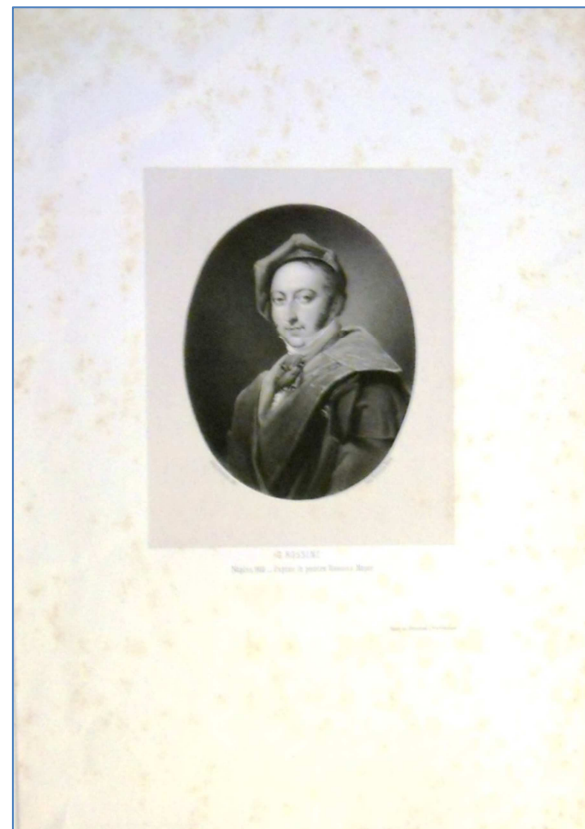
若き日のロッシェニの最も有名な肖像画が、ペーザロの「ロッシェニの家 (Casa Rossini = La casa natale di Gioachino Rossini)」所蔵の油彩である(右図)。これはコンスタンス・マイアー (Constance Mayer) の署名を用いるフランスの画家マリー=フランソワーズ・コンスタンス・ラ・マルティニエール (Marie Françoise Constance La Martinière, 1775- 1821) の制作と推測され、その模写に当たるものがボローニャの国立博物館/音楽図書館 (Museo internazionale e biblioteca della musica) に所蔵されている¹。



「ロッシェニの家」所蔵の原画

原画は 1820 年頃ナポリで描かれたと伝えられているが確証を欠き、ロッシェニ晩年の 1860 年代にパリで作られた複数の銅版画やリトグラフの基になっている(その段階で「Naples 1820」の記載が加わる。次図参照)。

筆者はその複数のヴァリエーションを所蔵しており、ここに紹介するのはその一つ、オギュスト・シャルル・ルモワーズ (Auguste Charles Lemoine, 1822-69) によるリトグラフである。同じアイテムを所蔵する蒐集家セルジョ・ラーニは、これを 1864 年とする。筆者所蔵のサイズは 67×32.5 cm、肖像の下部左に「Aug. Lemoine lith」、右に「Imp. Bertauts, Paris」、欄外下部の記載は「G. ROSSINI / Naples, 1820_ d'après le peintre Viennois Mayer」、右下に「Paris, au Ménestrel, 2. bis r. Vivienne」とある(ウィーンの画家マイアーは、前記フランスの画家マリー=フランソワーズ・コンスタンス・ラ・マルティニエールの誤りであろう)。「1820 年ナポリ」の記載が正しければ、ロッシェニ 28 歳の肖像となる。



28歳のロッシェニの肖像(1) A. C.ルモワーズによるリトグラフ、1864年頃。筆者所蔵(左は中央部分、右は全体)

[Collezione privata di Akira Mizutani – Tokyo]

(水谷彰良。2014年2月作成)

¹ 「ロッシェニの家」所蔵目録 (*La casa di Rossini, Catalogo del museo*, Fondazione Scavolini, 1989.) pp.168-169.に、ペーザロのそれが 1820 年頃ウィーンの画家マリー=フランソワーズ・マイアー (Marie Françoise Mayer, 1778-?) が描いた肖像に基づくとの記述もある。本稿では Marie Françoise Constance La Martinière (1775-1821) のオリジナルとしておく。